

# nanmori.letter 1号

南魚沼森林組合 組合会報  
発行 令和4年3月7日  
発行責任者 組合長 関正太郎  
南魚沼市舞子1819  
電話 025-783-3349

## 組合概要

沿革 平成17年2月 発足  
南魚北森林組合と南魚  
沼郡南部森林組合が合併  
代表者 代表理事組合長  
関 正太郎  
出資金 114,730千円  
(R4年1月末現在)

正組合員数 2,723名  
準組合員数 123名  
総代数 200名  
売上高 約2億8千万円  
(R4年1月末現在)

執行体制  
理事 12名  
監事 4名  
職員 8名  
森林技術員 33名(夏期)

山を価値ある財産に  
御あいさつ  
組合長 関正太郎

組合員の皆様方からは日頃の御協力に感謝申し上げます。組合たより発刊に際し一言御あいさつ申し上げます。

当組合は南魚北森林組合と南魚沼郡南部森林組合が合併して平成17年2月に発足しました。本年(令和4年)2月から18期に入りました。この間チェンソーと刈払い機に特化した組合として組合員の皆様方・施主様・関係機関のお陰で堅実に歩んで来ました。しかし全国的に凄まじい勢いで山離れが進んでおり当地域も例外ではありません。

## 山に目を向けて



代表理事組合長 関正太郎 (大和・東)



副組合長理事 小島正明 (大和・浦佐)



理事総務委員長 富沢哲 (湯沢・土樽)



理事 梶山健一 (六日町・五十沢)



理事 柳豊次 (湯沢・湯沢)



理事業務委員長 笠原喜一郎 (六日町・城内)



理事 有馬正光 (六日町・六日町)



理事 小林健一 (塩沢・上田)



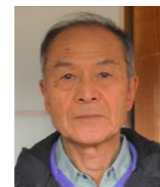
理事 高野武彦 (塩沢・石打)



理事 種村幸夫 (大和・大崎)



理事 笛木淳生 (塩沢・塩沢)



理事 森下正隆 (湯沢・三俣)

## 執行体制

### 理事

### 監事



代表監事 宮下公雄 (湯沢・神立)



監事 山口隆志 (大和・大崎)



監事 中俣一雄 (六日町・大巻)



監事 野上光芳 (塩沢・中之島)

職員 舞子本所に設置した看板前で



## 技術員

夏期33人の技術員がいます。雪やスキー場などへの出向が多くなります。写真撮影・掲載できません。



林業機械が導入

## 令和4年度組合が目指す方向

- 総務部門**
  - 1 組合員台帳の整理
  - 2 リモート化の推進
  - 3 過去施業記録のデータベース化
  - 4 ホームページの充実
- 業務部門**
  - 1 安全と法令順守の徹底
  - 2 素材生産の拡大一技術の錬磨
  - 3 施業出来る提携団体を探す
- 共通部門**
  - 1 職員・技術員新採用
  - 2 各種資格の取得 研修会参加
  - 3 施業ごとに、進捗が分かる書式の確立
  - 4 航空レーザー測量に協力・提言

## 人を求めています

### <現場管理部門>

職員 1名  
現場管理・顧客関係機  
関との渉外 (Excel、  
Word 必須)  
高卒以上・35歳くらい  
までの方

### <森林技術員>

森林整備現業職 若干名  
チェンソー・刈払い機・  
高性能林業機械を使用し、  
森林整備・木材生産・  
除草等の作業  
高卒以上・35歳くらいま  
での方。緑の雇用研修制  
度あり

お問合せ 組合本所 総務課長 平賀

残して行きたいものです。そのためには皆さんから山に関心を持って頂かなければなりません。心ある行政の担当者は悩みながら、山林所有者の提言を期待しているはず。多くの方が山に目を向ければ、必ず良い知恵が生ま

れ、それが、山の価値を高めると確信しています。微力ですが、組合もそうなるよう努力します。

どうか自身の山、地域の山に目を向け、目を掛けて頂きたい。そのことを紙上でお願いし発刊の御あいさつとします。

組合は今年1月フォワーダ(材木の積み下ろし機)の納車を受けました。5t積で約2千円の高額な機械です(写真上は納車時の記念撮影)。どの技術員の試し操作。どの作業でもそうですが、能率もさることながら、労働環境から機械が無ければ施業は成り立ちません。最近これまでに、グリップル(現場で木材をつかみ、選木、集積する)を平成20年から同30年までの間に

3台導入、令和元年にはプロセッサ(切り倒した木の枝払い、セツトした長さで玉切り集積する)を導入、この度のフォワーダに加えハンマーモアナイフ(トラクターとセットになった高率刈り機)受納済みで、超大型、特別用途、超高額を除いて、身の丈に合った機械は一通り揃いました。行政からはおりにつけ、補助の配慮を頂きました。安全・保全を心掛け、山の整備に役立てます。

☆ホームページをリニューアルします。「nan - mori.net」

当組合は、南魚沼市余川にある宝珠院寺領の山を十年という歳月をかけて手入れさせて頂きました。現任職・大塚賢秀さんに、ご自身が次世代へ繋ぐために取り組んでこられた森林整備への思いを語って頂きました。

(聞き手 中條涼子)

### 10年計画で林の整備 個人山との境界明確に

お寺と山は切っても切れないものです。その時の領主から寺領としていただいた山林に植林

## 本堂屋根、寺領の材で改修



大塚賢秀さん (74)

昭和22年6月生まれ、大正大学卒業後、六日町役場職員に、市役所退職後平成11年第55代寶珠院住職就任。

し、寺の修復、改修の材料の調達を代々にわたってしてきました。

昭和三十七年、先代住職の時に、本堂の屋根の改修をさせてもらったのですが、材料はすべて国産材、しかも自前の木材で済ませさせていたいただきました。大変ありがたいことでした。

高度成長期に入り化石燃料が普及して、さらに輸入材にたよるようになっていき、国産材の価値が失われつつある時代でしたが、改修に使用した木材はそれよりずっと以前に植林されて、地元の人々によって大事に育てられてきた木々です。それが今も形を変えて生きているのです。

その当時は、木を切って出すのはすべて人力でした。大きな広い雪ソリに乗せて運び出します。ダイモチゾリとよばれるものです。運び出した材木を、地元で製材していただきましたが、大きい梁は

人の手で挽いていただきました。

屋根の改修のために全伐した場所を、昭和四十七〜四十八年に植林しました。しかしその頃はまだ意識が高くなかったもので、あまり手入れをしないので、あまり手入れをしないので、いまさら、二百本植林したうちの十本〜十五本くらいしか育ちませんでした。その反省を踏まえて、平成に入ってから十年計画で山の整備を森林組合に依頼しました。

その中で、隣の個人との境界がはっきりしたようなこともあってありがたかったです。

山はやはり、自分や子供の代ではモノにならない、ひ孫の代になって初めて価値がでる、そこまでは投資をしなければならぬ。それは一つのネックになっていることは確かです。しかし、時代はSDG/Sの流れになりつつあります。他県では台風被害で山の杉の木が一面なぎ倒されていたのを目にしたことがあります。治山治水の観点からも今後は広葉樹の

植樹も視野にいれるべきではないかと思いました。

林業に従事する人たちが、林業で生計を立てられるようになってほしいと思っております。その仕組みを構築していくかなければなりません。

重い雪に鍛えられ、年輪が混んでいる。そういう意味からすれば、南魚沼の杉も捨てたものではないでしょう。杉の産地としてPRも森林組合には頑張ってもらいたいと思います。

§

インタビュー後大塚さんが本堂・位牌堂を案内して下さいました。渡り廊下から、昭和三十七年に改修された本堂の屋根部分が見えます。すべて寺山の木を使ったとのこと。本堂はすべて本物の木が使われており改修で、屋根裏に上がることもできるようになりましたよと、と教えて下さいました。

貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

(中條涼子)

## 千葉 富山 縁あって 組合に

緑の雇用(林業新規就業者支援制度)で2人の森林技術員が3年間の研修を終えた。一人は千葉県からスキの魅力で、もう一人は富山から魚沼の自然に惹かれ南魚沼の人・組合の人に。2人から研修を終えた感想と今後の思いを寄稿してもらった。今組合にはこの研修を受けている技術員が3人おり「チェンソーと刈払い機に特化」した当組合の戦力に育っている。

### 林業とスキー選択肢が魅力 千葉〜大浦陽一さん(38)

私が「緑の雇用」を知ったのは、ある映画を見てから林業の事を調べていた時である。

千葉県から移住し、森林組合の技術員として山の仕事をしながら、3年間で座学、関連資格の取得・実技研修を通して知識や技術、日本の林業の未来や課題などを学んだ。

山での仕事はとても素晴らしい、人間のちっぽけさや自然の雄大さを肌で感じた。研修や現場で学んだおかげで、下刈りや間伐の作業を事故もなく安全に行えている。林業が衰退し世界に遅れをとっていた日本だが、ここ数年は急速に機械化が進み



写真左=大浦さん  
写真右=金本さん



針・灸師辞め自然が良くて  
富山〜金本茂之さん(41)

平成二十九年から令和二年にかけての三年間、緑の雇用研修に参加させて頂きました。研修ではチェンソーや刈払機の安全な取り扱い方やメンテナンス方法、林業に係わる多様な免許の取得、そして森林整備の概要をわかりやすく教えて頂きました。

その中でも特に勉強になったことは伐採の実技講習で、例えば、杉の木を一本伐採するにも山の地形や周囲の状況、天候、自身の体調などをしっかりと把握したうえで、頭上、周囲の安全確認、伐倒方向、退避場所、受け口や追い口の深さ、角度、などなど、それら全てを勘案し木を倒す作業をする……。当初自分が想像していたよりもずっと大変なものでした。チェンソーを持つている手にも無駄な力が入ると切り口が曲がったり余計に切りすぎたり、場合によってはキックバックを起こす要因にもなりかねません。「木を見て森を見ず」ではありませんが、手元の事ばかり気を取られていても、周りの事ばかり気にしていても良くないものだと思います。

### 編集後記

組合会報第1号をお届けします。初回緊張します▽今年早くに春一番をきき、晴れた日は車を運転しながらエアコンを入れるということもありましたが、南魚沼の桜はまだまだ先。雪解けといっても、一面の雪景色は果てなく見渡せます▽また今年も山仕事が始まる。春が近づくとそういう気持ちになります。▽2022年度は皆様にとって良い一年になりますようお祈り申し上げます。

(N・R)



森林技術員 大浦 陽一

# 航空レーザーで山の計測 東・大崎・城内6800畝

南魚沼市

《南魚沼市民有林の28畝が一気に》

南魚沼市と県は昨年10～11月、2度に渡り航空レーザーを使い南魚沼市の東、大崎、城内6,820畝の民有林資源調査をした。これは同市の民有林面積24,920畝の28畝に当たる。このデータに基づき現在、林相区分、微地形表現図、傾斜、路網分布などの解析が進められており3月11日には成果品が示される。

《県内でも早く村上市と共に》 約6,900万円の予算を組んで県内先駆けて実施した。デジタル技術の急速な進歩に伴い航空レーザー測量は全国的に展開されている。今回のレーザー計測は県が主導した「新潟県スマート林業推進協議会」が村上市と合わせ1万9,800畝の民有林を対象に



南魚沼市をレーザー計測するヘリ機内（株式会社パスコII写真提供）

電波をレーザーで受信し、位置（座標）を求め、付属のスマートフォンヘッダーが転送され、現場で図面作成が完了となります。

今回は国土交通の運用基準では山林部での地籍調査精度区分が誤差1.0mの基準のところ、センチメートル級精度のRTK-GNSSという方法で、日本・アメリカ・ロシア・中国など五か国の衛星を利用し座標を求めました。ブナ林の中での実習でしたが、やはり誤差は数センチの実習結果でした。当組合は以前より測量はGPS衛星を利用した測量を行っていましたが、データを専用端末に転送、社内のパソコンにて図面作成をしておりました。現場で測量結果が確認できるというのは大きな利点です。しかも、従来の測量は二人で行いましたがGNSS測量は一人で測量を行うことが可能です。ポール測量を導入することで測量作業の効率化・省力化が大いに期待できます。

## 南魚沼市・大倉ブナ林 高精度・森林測量実習に参加して 関恵理

昨年11月、南魚沼市・大倉地区で新潟県スマート林業推進協議会の意見交換会が開催されました。今回はその中のスマート測量ポールを使用した森林調査測量実習に参加させていただきました。

ポール測量にはいくつかの方法がありますが、基本は衛星からの



(写真=上) スマート測量実習の様子(南魚沼市・大倉)



(写真=右) データ現地での聞き取り(組合本所)

### 《県が公募で実施》

「県スマート林業」は昨年6月、公募型プロポーザルで業者を募った。市町村が主体となつてする森林経営管理や林業事業者が実施する間伐等の効率化・省力化を支援するため「航空レーザーを活用して森林を計測することにより、単木単位の樹高、材積及び地形データ等の高精度で繊細な森林資源情報を整備する」ことが目的だ。さらにその際示された「仕様書」では業務の範囲として具体的に、航空レーザー計測と森林資源解析の2点を掲げ業務範囲を幅広く列記している。

### 《どんな事がどこまで》

具体的にどんな事がどこまで出来るのだろうか。杉などの人工林の単木は高い木の杉など、一本々の位置・高さ・材積がかなり正確に分かる。その木の知りたい面積をスマホで囲うと面積内の材積が出る。

魚沼地域の行政は、当地域がキノコ大生産地のため、オガ粉の地元供給を探っている。輸送費を掛け南魚沼へ搬入しなくて済むからだ。その場合地元どこにどれだけまとまりのある広葉樹があるかの林相はかなり正確に分かるが材積は難しそうだ。松食い虫被害や枯れた木の分布も分かる。

地形は相当な精度で分かり等高線や傾斜が分かるため、作業路開設の場合旧崩壊地や地すべり地形などをデータ化すること

により予想路線が早く示される。林道や作業道は精密に判読出来、堰堤などの施設も良く読み取れるほか、歴史的遺構(城跡など)も分かる

### 《山林地籍調査、境界確認は公民館で》

栃木県森林組合連合会が事業主体になってした山林地籍調査ではレーザー計測データを使い地図を作成、令和3年2月、それが栃木県に認証され、今法務局で使用されている。境界確認は現地へ行かず公民館でした。国交省・地籍整備課長と林野庁・森林利用課長は令和2年、連名で各都道府県に対し、「レーザー計測データを活用した森林調査等と地籍調査との連携の推進について」通達を出して、山林・資源調査と地籍調査を共有して使うよう市町村への周知を呼びかけている。

### 《広いデータの活用範囲》

国交省が治山・治水用途で以前からデータを持つていることは広く知られている。これと今後の林業資源計測を組み合わせれば、幅広い活用が見込まれるし相互利用により国交省データのバージョンアップが可能で他県ではすでになっている。

道路管理、上下水道、都市計画などの他広く公開することにより防災、観光など用途は広い。今後も森林資源調査を進めることはもちろんだが、活用方法を事前に幅広く考えそれを発注者として調整し「仕様書」にどのように落とし込みどう解析するかは担当行政職員たちの技量だ。それぞれにお金が掛かる事だからだ。

### 《今後の進め方》

南魚沼市は令和4年度もレーザー計測を継続してする考えだ。単純に山林面積ベースで考えればこれから2～3回実施すれば市の民有林すべてを終えることが出来る。山は奥行が深く面積も境界も材積も本当は誰も分からない。レーザー計測による「診断」はそれに続く「処方」に役立つし、役立つような解析仕様にしなければならない。

### 室内での山林境界確認の実演(3月25日)

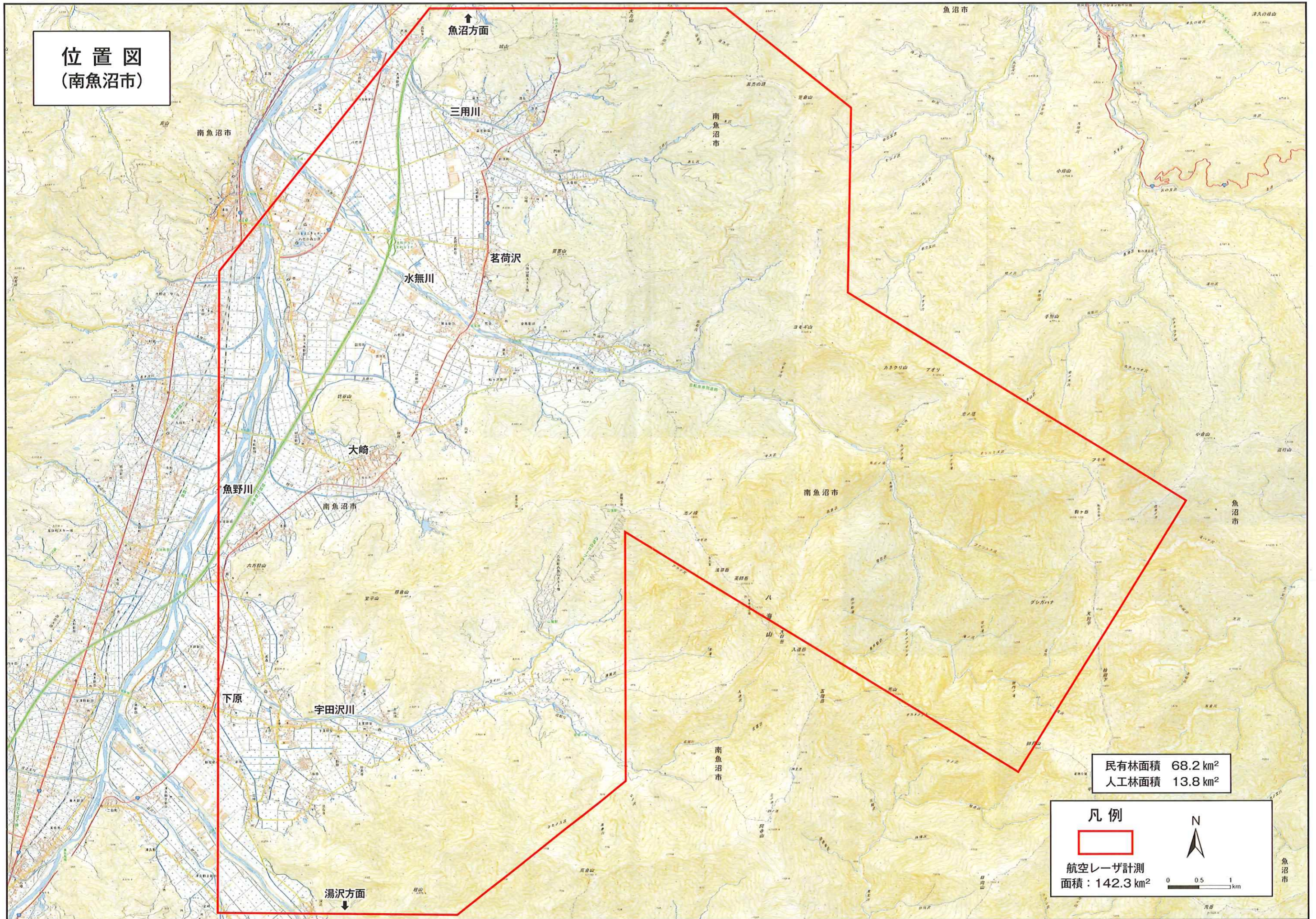
場所 南魚沼市役所  
時間 午後1時から

2階大会議室

ミニ講演会、その後市内データを使い室内境界確認を体験。参加は無料随時都合の良い時間に


(参加希望者は事前に市役所林務係に連絡する必要あり) 電話 773・6663

位置図  
(南魚沼市)



民有林面積	68.2 km <sup>2</sup>
人工林面積	13.8 km <sup>2</sup>

**凡例**

 航空レーザ計測  
面積：142.3 km<sup>2</sup>

N

0 0.5 1 km

魚沼市